

港区立御田小学校
平成30年度 授業改善推進プラン

教育目標

○よく考え くふうする子ども ○進んで行き やり通す子ども ○仲よく はげましあう子ども
○じょうぶで 心ゆたかな子ども

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

「確かな学力」
 ・主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を推進する。
 ・個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させ、基礎基本の定着と「思考力・表現力・判断力」の伸長を図る。
 ・授業におけるユニバーサルデザイン化をめざし、すべての子供が学びやすい授業づくりを行う。
 ・学習規律を定着させ、学ぶ意欲と教育効果を高める。
 ・家庭との連携、地域人材の活用を図り、教育活動を充実させる。

昨年度の成果と課題

<成果>
 ・実態や目的に合わせた学習形態（ペア・トリオ・グループ）を取り入れ、キーワードや話型を示すことで、児童が話し合いをスムーズに進め、友達の考えと比べることができるようになってきている。
 ・習熟度に合わせて問題提示を行ったり、みたルームや学習支援員と連携を進めたりしたことにより、個に応じた学習支援の充実を図ることができた。
 ・研究授業では、指導案に想定される児童のつまずきと支援を表記した。さらに、授業中の児童の様子を観察し、変化スコアを用いて、支援の効果を検証した。それにより、次時の指導に生かすことができた。

<課題>
 ・子供たちが、対話や話し合いを通して理解や考えを深める授業づくり。
 ・授業の導入・まとめに視点を置き、子供たちの学ぶ意欲を高める指導方法の工夫。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○朝学習を中心とした始業前活動の有効活用 ○授業時間の確保と授業内容の精選 ○教科指導と関連付けた学校図書館活用計画の作成 ○「みたルーム」と担任の連携	○学習規律の確立 ○個々の児童の実態や能力に応じた授業展開の実施 ○特別支援教育の視点を生かした指導の工夫(焦点化、視覚化、共有化、個に応じた支援)	○指導の中での評価と支援の一体化。個に対応した評価と指導計画の具体化 ○特別支援教育の視点から個に応じた評価の工夫	○研究テーマ「自分の考えをもち、互いに学び合う児童の育成～授業のユニバーサルデザイン化を基盤として」 ○「特別の教科 道徳」における研究の推進 ○若手教員の効果的な育成および研修体制の充実	○学校内外に向けた情報の開示 ○地域・保護者・関係諸機関との緊密な連携

具体的な取組

○朝学習<15分間>として、漢字や計算の学習、読書、読み聞かせやスピーチを行う。 ○毎学期、授業時間の達成状況に応じて時間割の編成を行う。 ○RAS と連携を図り、年間計画の中で学校図書館の活用を入れながら編成する。「学校図書館の手引き」を配布する。 ○個別指導計画の作成を行う。	○「学びの心得」を掲示する。 ○教科担任制を取り入れる。算数少数指導を行う。指導体制は担任および専科教諭、少数担当教諭、講師で編成する。 ○「みたルーム」と連携し、個別支援・学習支援のあり方を工夫する。 ▲「全員参加型」「対話重視・協働的」授業を積極的に取り入れる。	○複数の教員が1人の児童の評価にかかわり、評価の共有化を図る。 ○毎時間の自己評価や振り返りを活用し、次時の指導に生かす。 ○「道徳ノート」の導入による評価のポートフォリオ化を検証する。	☆「特別の教科 道徳」における研究授業年間6回行う。 ○1学期の実践のまとめを、夏季休業中に全教員で共有する。 ○校内OJTを実施する。 ○三田アカデミーにおいて公開授業を行う。	○学校評価・関係者評価など、学校内外に向け情報を開示する。 ☆ホームページの充実を図る。 ○三田アカデミーの幼・小・中一貫教育を推進する。 ○地域コーディネーターを活用する。 ○地域行事へ児童・教職員で参加する。 ○「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着を図る。 ▲教育ボランティアを活用する。
---	--	---	--	--

☆→今年度からの取組 ○→定着・継続している取組 ▲→活性化が必要な取組